

Vascular Street

新 春
特 集

新年のご挨拶

福岡大学 学長 朔 啓二郎

皆さま、新年あけましておめでとうございます。本年も、皆さまにとって良い年となりますよう、心からお祈り申し上げます。

昨年はじめから、COVID-19（新型コロナウイルス感染症）パンデミックのため、社会全体が大混乱に陥りました。本学も同様に、卒業式、入学式は中止になり、新たに迎えた学生もキャンパスで学ぶことができず、大学の授業はインターネットで実施され、人との交流も制限された状況でした。戦争を知らない私たちにとって、異常な現実を経験させられた1年でしたが、時間は誰にとっても同じように過ぎていき、また新しい年を迎えました。時間だけは森羅万象に必ず平等に過ぎ去るものであること、そして、諸行無常を改めて実感しました。大学のスタンスですが、結論を言えば、オンライン授業であろうが、対面授業であろうが、本質的な問題ではありません。今問われていることは、学生の学びを止めないためにどうするか、学生にどう向き合うかだけなのです。医学部は何ら問題になっていないのも事実ですね。ここで、新型コロナが過ぎていけば、以前と変わらない対面授業に戻ろうとしている大学には明日はないと言われてます。これは明確に言えることで、私たちが変わらないといけない、コロナから「ニューライフ」に移動するチャンスです。コロナは、「大学とは何か？」を突き付けたものと考えています。

マスクの説明：

（株）ミズノ様との共同では、スポーツができるマスクで、「Rise with Us」が入っています。汚れたら洗濯してください。白血病を克服した、池江璃花子さんとのコラボレーションです。



学生、教職員、卒業生、キャンパス、そして地域社会が一体となって運動・活動し、開かれた自由闊達な議論を通して共に成長・発展することで、大学の使命である、時代に即応しグローバルに貢献する教育・研究・医療の提供を目指します。「共にステップアップする」というメッセージです。

もう一つは、普通のマスクですが、福岡大学の建学の精神を英語にした「Five Ss」が入っています。これはディスプレイですが、使っていたら幸いです。

建学の精神に基づいて

Fukuoka University's Five Ss

「思想堅実」： **Steady**

「穩健中正」： **Sensible**

「質実剛健」： **Sincere and Strong**

「積極進取」： **Spirited**

スローガン「Rise with Us」

昨年、学長就任にあわせて福岡大学の新しいスローガンとして「Rise with Us」を掲げ、学生、教職員、卒業生そして地域社会が共に成長していくことを宣言しました。併せて、建学の精神に基づいた「Five Ss (steady, sensible, sincere and strong, spirited)」も提唱しています。まだまだ予断を許さないコロナ禍において、この「Rise with Us」と「Five Ss」の精神で皆さんと共に乗り切っていきましょうとの呼びかけで、啓発するマスクを作りました。母校のために全力で取り組み、福岡大学の未来を拓くことをお約束いたします。引き続きご支援とご協力を、よろしくお願いします。



啓発マスク



学長室

福岡大学病院

福岡大学 医学部 心臓・血管内科学 主任教授 三浦 伸一郎

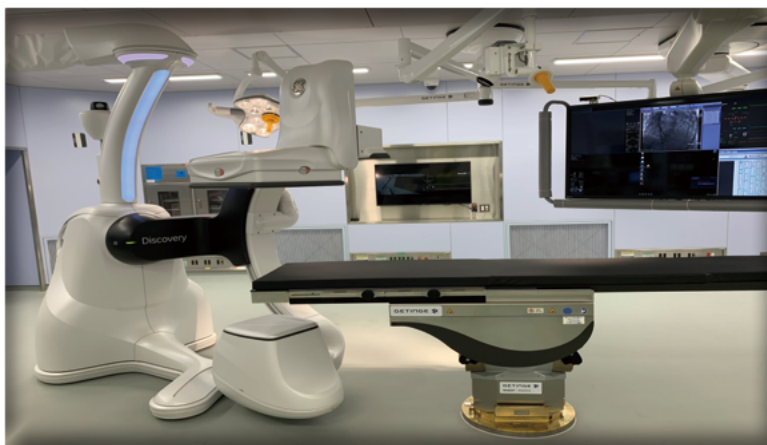
謹んで新春のお慶びを申し上げます。

旧年中は大変お世話になり、誠にありがとうございました。また、私が教授に就任させていただいてから3年が経過しましたが、これまで多くの先生方に支えられ、教室運営ができておりますことを厚く御礼申し上げます。

福岡大学は、地域医療に貢献すべく、3つの病院「福岡大学病院」、「福岡大学筑紫病院」、「福岡大学西新病院」を開設し、「患者さん中心の寄り添うあたたかい医療」を展開しております。福岡大学病院では、「循環器内科」を標榜し、虚血性心疾患、不整脈疾患、末梢血管疾患、弁膜症、心不全、心膜・心筋炎、心筋症、肺高血圧症などの心臓・血管疾患と、冠危険因子の高血圧、脂質異常症、糖尿病、痛風、肥満などの代謝性疾患に対し、24時間体制で診療を実施しています。

また、福岡大学病院では、ハイブリッド手術室を開設し、国内でも数少ない最新の自走式の血管撮影装置「Discovery IGS730」を導入しました。ハイブリッド手術室とは、手術台と血管撮影装置を組み合わせた手術室で、外科手術による治療とカテーテルによる低侵襲血管内治療を手術室と同等の空気清浄度を保ちながら同一の室内で行うことが可能です。したがって、カテーテル治療のみではできない病変に対して手術を同時に行うことができ、手術侵襲が大きい場合、カテーテル治療で代替することができます。循環器内科医、心臓血管外科医、麻酔科医、放射線技師、臨床工学技士、看護師など多職種で連携した「ハートチーム」により、手術時間短縮や出血量減少、造影剤量や被ばく線量の低減など患者さんに優しい先端医療を提供していきます。さらに、当科では、一般内科から循環器専門まで診療できる医師育成につとめ、多くの臨床試験を企画し、様々な先端治療や臨床エビデンスを創出し、教室全体に活気があり人を育てる環境整備に努めております。

今後も福岡大学病院の近隣の方々や医療機関のお役に立てますように一層努力して参りますので、今年もご指導のほど宜しくお願いします。



ハイブリット手術室

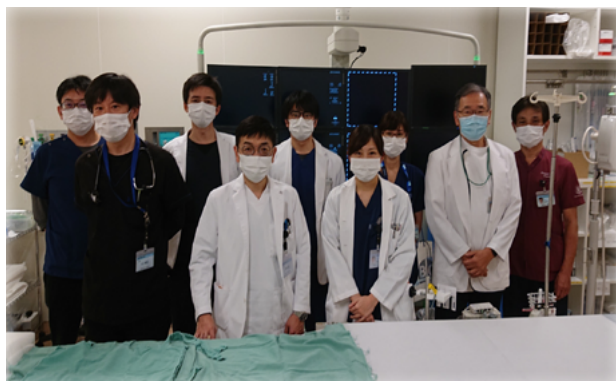
筑紫病院

福岡大学 筑紫病院 循環器内科 教授 河村 彰

明けましておめでとうございます。

令和2年は新型コロナに始まり、新型コロナに終わった、という意見に異を唱える人はいないかと思います。そんなコロナ流行の真っ只中、令和2年4月1日に福岡大学筑紫病院（以下、筑紫病院）循環器内科の教授に就任し、沢山の良いことがありました。まず、ほぼすべての会が中止になったため、あまり出費をせずに済みました。また、何が不要不急かが分かるようになり、付き合いや仕事の効率が向上しました。更には感染予防対策への意識を高く持つようになり、感染症に対する知識を得るに至りました。この様に令和3年はThink positive! をテーマに進んで参りたいと思います。

令和2年の筑紫病院 循環器内科では、5～7月こそ不要不急、受診控え、紹介控えの影響もあり、病床稼働率、心カテ症例数とも落ち込みを見せましたが、8月以降は順調に回復してきており、12月まで病床稼働率100%以上、冠動脈インターベンション（PCI）10例/月以上を維持しています。今年は丑年ではありますが、筑紫病院 循環器内科では牛歩のように着実に、しかし上り龍の様にこのままV字回復を目指す所存でございます。皆様方の変わらぬお力添えをお願い申し上げます。新しい年が、福岡大学病院、筑紫病院、西新病院にとって良い年であり、また、皆さんにとっても素晴らしい年でありますようお願い申し上げます。



西新病院

福岡大学 西新病院 循環器内科 診療准教授 西川 宏明

新年、明けましておめでとうございます。

旧年中は大変お世話になりました。昨年初旬から続く COVID - 19 感染拡大により、世界中が混迷を極める中、福岡大学西新病院も例外なくコロナ禍の影響を受けました。福岡大学病院をはじめ、近隣の多くの医療関係者、感染対策に協力と理解を頂いた地域の方々に支えられ、2021 年を迎えられたことに心より感謝致します。

福岡大学西新病院は、2018 年 4 月 1 日に福岡市医師会成人病センターより医療事業を譲り受け開院しました。2019 年 12 月 1 日より福岡大学循環器内科 三浦伸一郎教授が当院病院長に就任され、「地域に信頼される医療の提供」を基本理念に、「断らない医療の推進」をスローガンに掲げ、365 日 24 時間診療体制で地域医療と高度医療を橋渡しできる新しい形の地域医療連携を目指してきました。この度のコロナ禍が続く中、これまでの個々の価値観や生活様式は短期間で大きく変貌し、病院の在り方につきましても感染対策や救急医療、スタッフの働き方や学生教育に至るまで早急に再構築することが必要とされています。2021 年は、このコロナ禍を糧として、より良い医療が提供できるようスタッフ一同丸となって努めていきたいと思ひます。

現在、循環器内科は、勝田洋輔副院長、循環器科長として西川宏明、助教に井上寛子先生、長田芳久先生、後藤昌希先生、山下素樹先生を常勤とし、助手の川平悠人先生が半年間のローテーションで学んでいます。また、非常勤医師とし福田裕次郎先生が不整脈治療を担当しています。2021 年は、心不全治療を中心に、冠動脈疾患および不整脈疾患に対して更なる質の高い医療を提供できるように努めたいと思ひます。本年も当院スタッフ一同を何卒宜しくお願い致します。

